

「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名：やまかわさとみ事務所

土木広報活動または作品名： やまかわさとみ（山川里海）の新作狂言

広報活動または作品の概要

【 地域づくり・人づくりをテーマとする新作狂言の企画・創作・総合プロデュース 】

■「100年後に残したい水辺の景観（土木遺構・史跡）・地域に所縁深いキャラクター（神・妖怪・生物など）」を徹底取材。小中学生の体験作文とアンケートに基づき、子どもたちが興味深く演じて、楽しく鑑賞できる新作狂言脚本を創作。

■手法 その①「アマチュア子方起用の新作狂言」

能楽師が650年受け継いできたユネスコ無形文化遺産「狂言」の型と技芸を活用した演出法で、出演者は、狂言師＋囃子＋一般募集の子どもとする。オーディション募集段階から広報の機会とし、稽古風景もマスメディアに公開。

■手法 その②「地域三世代で育成する子ども狂言」

狂言師・能楽師の指導をプロデュース。「やって楽しい・観て楽しい」を合言葉に、おばあちゃんの帯で装束を、おじいちゃんの日曜大工で能楽特有の大道具（柱や欄干）を制作してもらうなど、三世代が積極的に関わって、地域の魅力発信や他地域との交流ができる「子ども狂言」を創作育成。（現在、小学校3校、高校1校が継承。）

■作品活用（企画提案・プロデュース・助成金申請・運営）

歴史的建造物（城郭）の復元式典  
江戸期の兄弟藩交流（尾張藩×高須藩）（薩摩藩×高須藩）  
水源林・ヨシ原保全・研修（水源林×汽水域）  
上下流交流（水源域×下流都市）  
新旧都市交流（清州×名古屋）  
上下水道イベント（水辺能舞台）

■広報：子方募集チラシ・公演チラシ・作品制作の背景・テーマに沿った有識者コメントを入れたパンフレット配布

※告知・稽古の段階からマスメディアに取り上げられて盛況を博す。

NHK名古屋放送局、東海ラジオ、ケーブルTV

読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、毎日新聞、中日新聞、岐阜新聞、中部経済新聞、

【 作 品 】（2016年4月～2017年3月実績）

■手法 その① 【 アマチュア子方起用の新作狂言 】

●名古屋城本丸御殿復元記念狂言「夢づくり」【テーマ：森の保全・城郭復元】

(出演：井上松次郎・野村又三郎・佐藤 融・竹市 学 他) (鑑賞者：約 2100 人)

2016 年 5 月 30 日「名古屋城本丸御殿対面所・下御膳所公開式典」(名古屋能楽堂)

2016 年 11 月 27 日「尾張×高須 葵の絆」(岐阜県海津市文化センター大ホール)

2016 年 12 月 10 日「あま市市民活動祭」(愛知県あま市美和文化会館大ホール)

2017 年 2 月 2 日「名古屋城夢づくり狂言会」(名古屋能楽堂)



### 名古屋城本丸御殿 「夢づくり」

復元記念狂言 作||やまかわさとみ

【作者のごとは】

深山に木霊した茶の音が止んで樹齢三百年の檜が横たわると、木曾の仙人は、その梢を切り株に立てて深い祈りを捧げました。感動の奔入れ行事から十年、本丸御殿復元と共に、森の保全や地域交流など、素晴らしい市民活動の輪も広がっています。そして、城郭とは切っても切れない芸術が、ユネスコ無形文化遺産日本第一号「能楽」です。中でも天下泰平を夢見る武家社会を天に和ませたのは、普通の心理を突くヒューマンコメディ「狂言」でした。

名古屋城の創建とともに生まれた和泉流狂言で披露する「夢づくり」の中では、てんぱらりと御殿が現れますが、実物は、英語でいう「Reinited」にあらず、「Rebuilt」の本丸御殿は、日本の風土と永年の匠技の結果です。「人が文化を創り、文化が人を創る」その素晴らしさを、今後も名古屋城郭の復元によって後世に繋いでいただくことを切望いたします。

(やまかわさとみ 揮)

シテ(大名) 井上松次郎

アド(太郎冠者) 鹿島俊裕

アド(山伏) 野村又三郎

会釈(笛) 竹市 学

後見 今枝郁雄

【あらすじ】

戦によって焼けた御殿の復元を夢に見た大名井上松次郎は、これを正夢にしようとして太郎冠者(鹿島俊裕)を呼び出す。利口者の太郎冠者の勧めに乗って人足を千人召し抱えて来いと命じると、千人かを自称する山伏(野村又三郎)が現れる。御殿を祈り出すと、呪文を唱え、柱一本立たず、近年の森荒れで山神様の機嫌が悪い、と言いつくする山伏に怒り心頭の大名は、どうとう太刀に手をかける。太郎冠者の援護もあり、命拾いした山伏が再び祈ると、見事に往時そのままの御殿が目前に表れた。喜々として御殿に入り、匠の技に見惚れる大名と太郎冠者を待ち構えていたのは…

●名古屋開府 400 年記念清州越し狂言「轍 (わだち)」【テーマ：水辺の都市創造】

(出演：佐藤友彦・佐藤 融・今枝郁雄 他) (鑑賞者：約 1400 人)

2016 年 11 月 27 日「尾張×高須 葵の絆」(岐阜県海津市文化センター大ホール)

2017 年 2 月 2 日「名古屋城夢づくり狂言会」(名古屋能楽堂)





●なごや妖怪狂言「冥加さらえ」【テーマ：都市河川の浄化】

(出演：野村萬斎・佐藤融・井上松次郎・野村又三郎・竹市 学・久田陽春子・河村眞之介・加藤洋輝・他、一般募集の子どもたち) (鑑賞者：約 1800 人)

※ 子ども稽古 30 回

2016 年 5 月 15 日「冥加さらえ」子方オーデション+熊本復興講演会 (名古屋市中村文化小劇場)

2016 年 9 月 22 日 熊本復興応援「あいち戦国武将 LAB 特選狂言会」(名古屋能楽堂)

2017 年 2 月 2 日「名古屋城夢つくり狂言会」(名古屋能楽堂)

2017 年 6 月 4 日「なごや水フェスタ」(名古屋市鍋屋上野浄水場 水辺能舞台)



**児童熱演 ひょうきん小河童**  
なごや水フェスタ 創作狂言が初上演

水邊浄水場(177日)に 夏の妖怪「おからね」や合わせ、名古屋市中村区「日酒女」と手を組んで、同市鍋屋上野浄水場で、堀川の川さらえを計画する4日、恒例の「なごや水フェスタ」が開催され、狂言が初めて上演された。古風、高浜、大町、瀬戸市の小学2年、6年生で、これが3回目の舞台といえ、小河童のひょうきんな所作を見事に演じ、観客連れの目立つ観客から盛んな拍手を受けていた。

「冥加さらえ」は龍神の密命を受けて木曾の山奥から出てきた河童たち、大勢の人を集めて、名古屋

新作狂言「冥加さらえ」で、堀川の川さらえを計画する



日(土曜日) 中 乗 昇 星 (第2種乗降券可)

**伝統芸能**

**創作狂言「冥加さらえ」**

名古屋の歴史に根ざした 創作狂言三部作「一夢」の第一作「冥加さらえ」が名古屋城夢つくり狂言会によって上演された。この「冥加さらえ」は、江戸時代の名古屋を舞台にした、子どもも楽しめる、浄化の物語も巧みに織り込まれた。二日、名古屋能楽堂で、田村光也さん撮影

「冥加さらえ」の、手前左から井上松次郎、鹿島俊裕、野村又三郎、名古屋能楽堂で、田村光也さん撮影

**手の内**

代の堀川の川さらえを、奇想天外な妖怪メルヘンで、子どもも楽しめる、浄化の物語も巧みに織り込まれた。二日、名古屋能楽堂で、田村光也さん撮影

大曾の竜神(佐藤融)に不老長寿の妙薬集め、神に捧げた河童太郎(鹿島俊裕)は、堀川の川さらえを計画する。二日、名古屋能楽堂で、田村光也さん撮影





New Works for Kyogen

**Wadachi, (The Wheel Furrows) with Sato Tomohiko, Yume Tsukuri with Inoue Matsujirō and Myōga Zarae with Kashima Toshihiro** (All written by Yamakawa Satomi).

(February 2nd, Nagoya Noh Theatre) in the Nagoya Castle 'Yume Tsukuri' Kyogen Kai.

**Ayu (The Sweetfish)**

(December 22nd, National Noh Theatre) Nomura Mansai. Written by Ikezawa Natsuki and Directed by Nomura Mansai.

国際演劇年鑑 2018 掲載

■手法 その②【 地域三世代で育成する子ども狂言 】

●木曾三川子ども狂言「失せうろこ」 【テーマ：治水史跡と清流魚の保全】 (参加者・鑑賞者：約 2500 人)

★岐阜県海津市立大江小学校総合学習

指導：年間 12 回 上演：年間 5 回

2016 年 4 月 25 日、2016 年 4 月 25 日「治水神社大祭」(薩摩藩×高須藩)(岐阜県海津市治水神社)

2016 年 7 月 26 日、2017 年 8 月 10 日「上下流交流狂言会」(岐阜県中津川市かしも明治座)

2016 年 8 月 5 日、2017 年 8 月 4 日「名古屋城宵祭りオープニングセレモニー」(尾張藩 VS 高須藩)

2016 年 11 月 3 日、2017 年 11 月 3 日「かいづの狂言」(尾張藩×高須藩)(海津市歴史民俗資料館能舞台)

2017 年 3 月 4 日、2018 年 3 月 3 日「海津市文化祭客演」(岐阜県海津市文化センター大ホール)



●木曾三川子ども狂言「狐鬼灯」 【テーマ：輪中の防災と歴史観光】 (参加者鑑賞者：約 300 人)

★海津市立海西小学校総合学習

指導：年間 12 回

上演：年間 1 回

2017 年 3 月 3 日「地域公開」(1 部公開) 海西小学校体育館



2018年2月16日「地域公開・防災講座」(全編初演)海西小学校体育館



●木曾三川子ども狂言「おそそ仁王」【テーマ：水郷の災害史と防災】(参加者・鑑賞者：約1100人)

★愛知県あま市市民活動 指導：年間12回

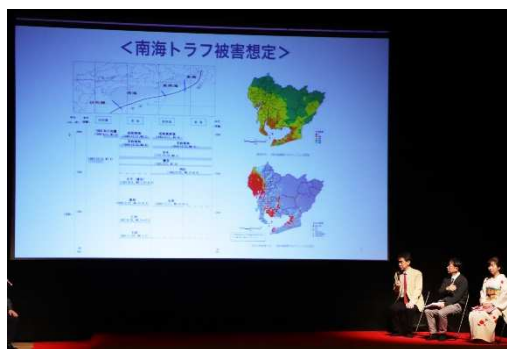
★愛知県あま市立正則小学校総合学習 指導：12回

★愛知県立杏和高校 JRC 部 指導：5回

2016年12月10日「あま市市民活動祭」(あま市×名古屋市)(あま市美和文化会館大ホール)

2017年3月28日「名古屋城桜まつり」(名古屋城×あま市)

2018年2月12日「あま市子ども狂言プロジェクト能楽鑑賞+防災講演会」(あま市美和文化会館大ホール)







#### 広報活動の効果

■参加者・観覧者（2016年4月～2018年3月） 合計 約9200人

■狂言は20～30分の短編喜劇なので、テーマ（魅力ある景観・キャスト・歴史・防災など）を伝える講演やシンポジウムなどのコラボレーションに適している。Eテレの「日本語であそぼ」で毎日野村萬斎が演じており、小学校の教科書にも掲出されているため、子育てファミリーにとって最も身近な伝統芸能だ。

■観覧者アンケートでは、92%が「地域の魅力を再発見できた」と回答し、78%が「自分の子どもや孫を出演させたい・自分も関わりたい」との好回答を得られた。

<自由回答より>

○子供達が演じるからこそ意味があると思いました。地域の景観の魅力を知り、又、親や小学校の先生方以外の大人（スタッフや関係の方々）と作品を作り上げていく体験は子供達にとって貴重な事だと思います。

○わかりやすくおもしろかった。短いのも見やすかった。作家の方の解説が面白くわかりやすかった。

○当地の魅力や歴史はもちろん、災害史を知ることのできる内容がとても良かった。

○地元で伝わる歴史や昔話をまったく知らないことがわかった。かやづ神社の「つけもの祭り」や「神のもの」の話もつい最近知ったので、おそそ仁王にでてきてうれしかった。

○伝統文化を通じて自分の住むまちの歴史や魅力を学ぶことは大変素晴らしいと思います。これからもがんばって下さい！あちこちで公演されると良いと思います。

○感動しました。これからも地域の文化として継承して行って下さい。これが本当のまちづくりだと思います。

付属資料の提出

■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。）